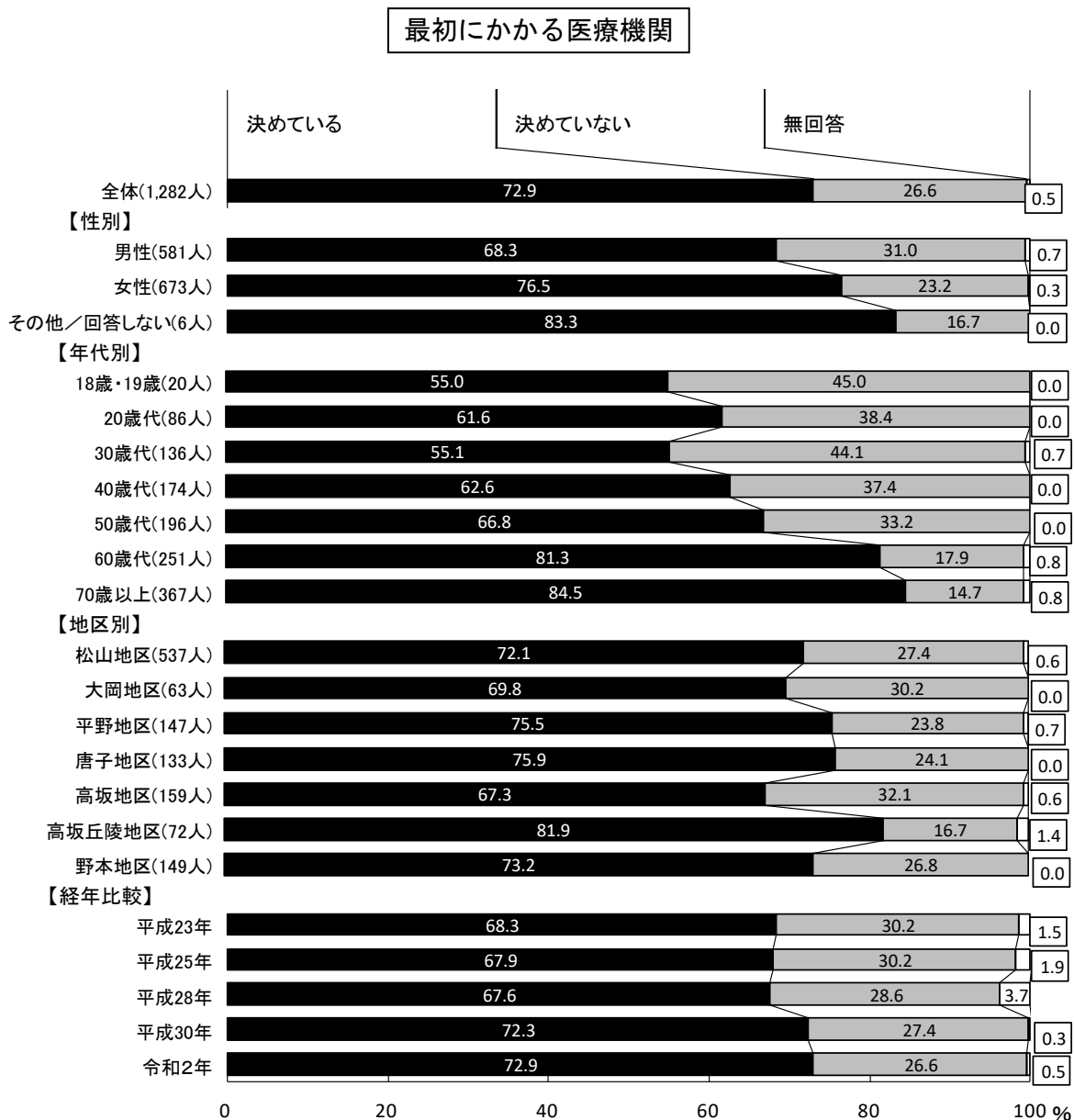


2 健康や医療・福祉について

2-1 最初にかかる医療機関

◆「決めている」72.9%◆

問5 あなたは、体の不調を感じたとき、最初にかかる医療機関を決めていますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



全体では「決めている」(72.9%)、「決めていない」(26.6%)となっています。

性別で見ると「決めている」は女性(76.5%)が男性(68.3%)を8.2ポイント上回っています。

年代別で見ると「決めている」は18歳・19歳～50歳代で5割台半ば～6割台半ばとなっていますが、60歳代、70歳以上で約8割となっています。

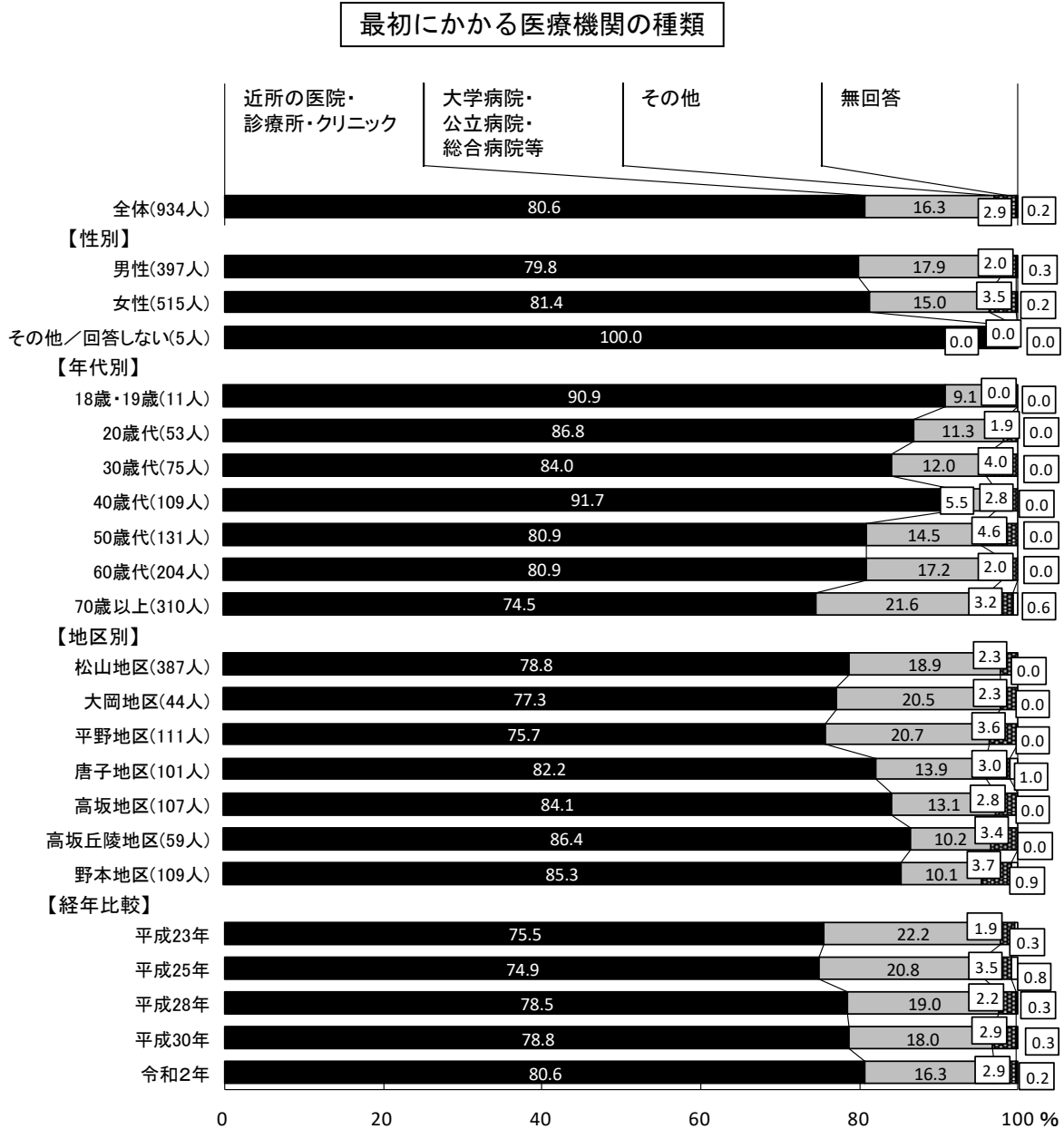
地区別で見ると「決めている」は高坂丘陵地区で8割を超え、松山地区、平野地区、唐子地区、野本地区で7割台と高くなっています。

平成30年度調査以降「決めている」は7割以上となっています。

2-2 最初にかかる医療機関の種類

◆「近所の医院・診療所・クリニック」80.6%◆

(問5で「決めている」とお答えの方におたずねします)
問5-1 それは、次のどれですか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



全体では「近所の医院・診療所・クリニック」(80.6%)、「大学病院・公立病院・総合病院等」(16.3%)、「その他」(2.9%)となっています。

年代別で見るといずれの年代も「近所の医院・診療所・クリニック」が最も高くなっており、18歳・19歳、40歳代で9割を超え高くなっています。また、70歳以上では「大学病院・公立病院・総合病院等」が21.6%と他の年代に比べて高くなっています。

地区別で見るといずれの地区も「近所の医院・診療所・クリニック」が7割台半ば～8割台半ばと高くなっています。

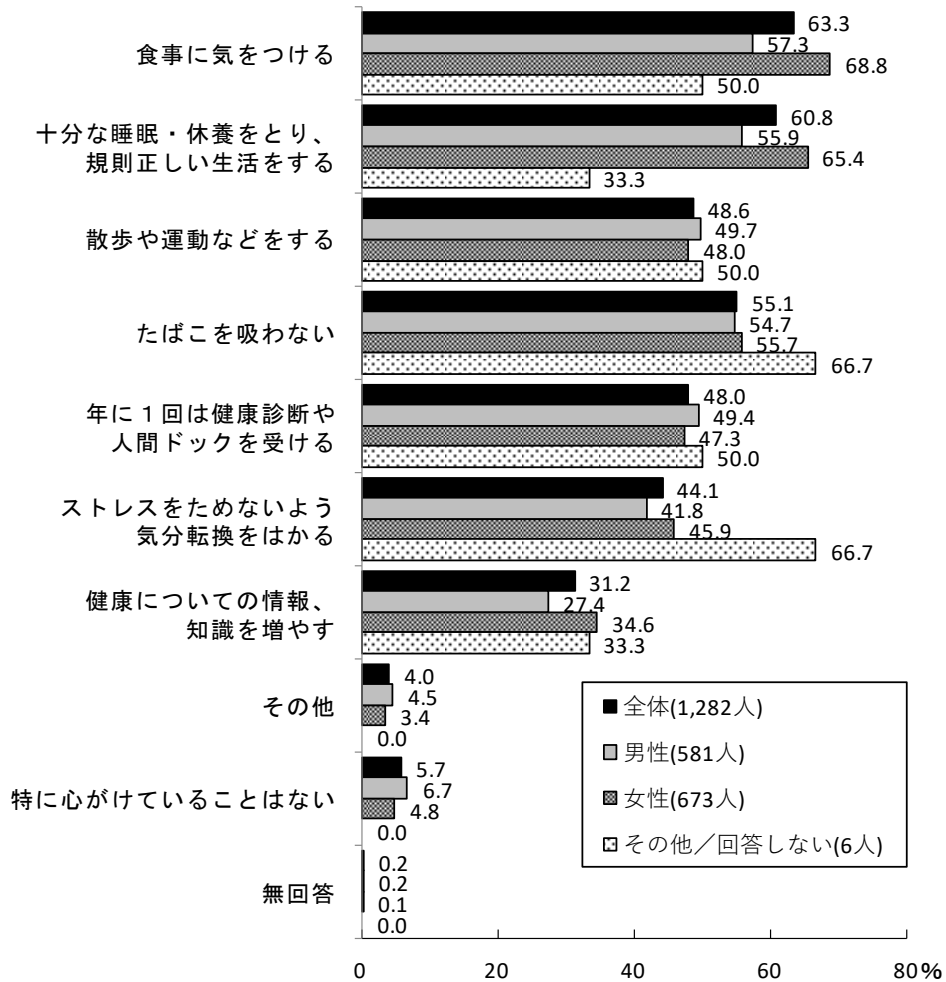
平成23年度調査以降「近所の医院・診療所・クリニック」は増加傾向にあり、今回調査では8割を超え最も高くなっています。

2-3 健康づくりのために心がけていること

◆「食事に気をつける」63.3%、「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」60.8%◆

問6 あなたが、自分の健康づくりのために日頃から心がけていることはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

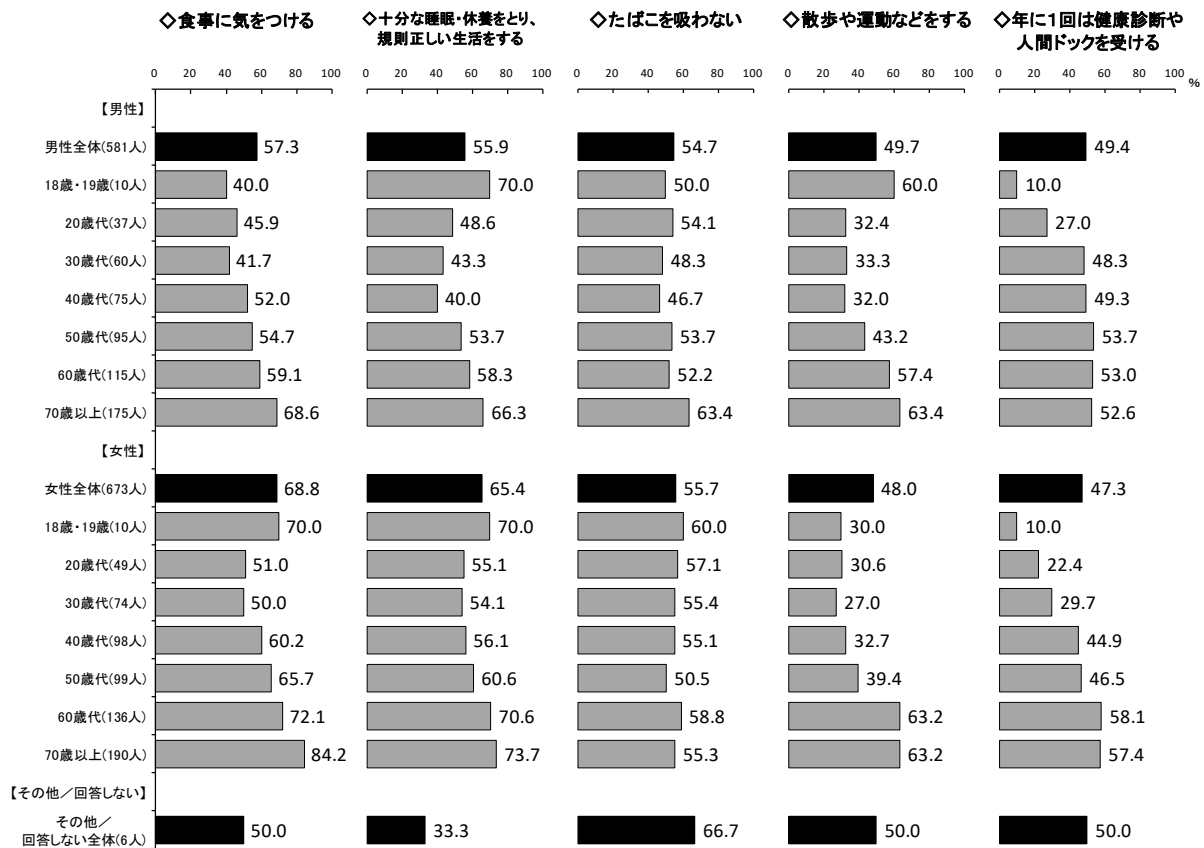
健康づくりのために心がけていること（全体・性別）



全体では「食事に気をつける」が63.3%で最も高く、次いで「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」(60.8%)、「たばこを吸わない」(55.1%)、「散歩や運動などをする」(48.6%)、「年に1回は健康診断や人間ドックを受ける」(48.0%)の順で続いています。

性別で見ると「食事に気をつける」は女性(68.8%)が男性(57.3%)を11.5ポイント、「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」は女性(65.4%)が男性(55.9%)を9.5ポイント、「健康についての情報、知識を増やす」は女性(34.6%)が男性(27.4%)を7.2ポイント上回っています。

健康づくりのために心がけていること（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「食事に気をつける」は男性では70歳以上で7割近く、女性では60歳代以降の年代で7割以上となっています。

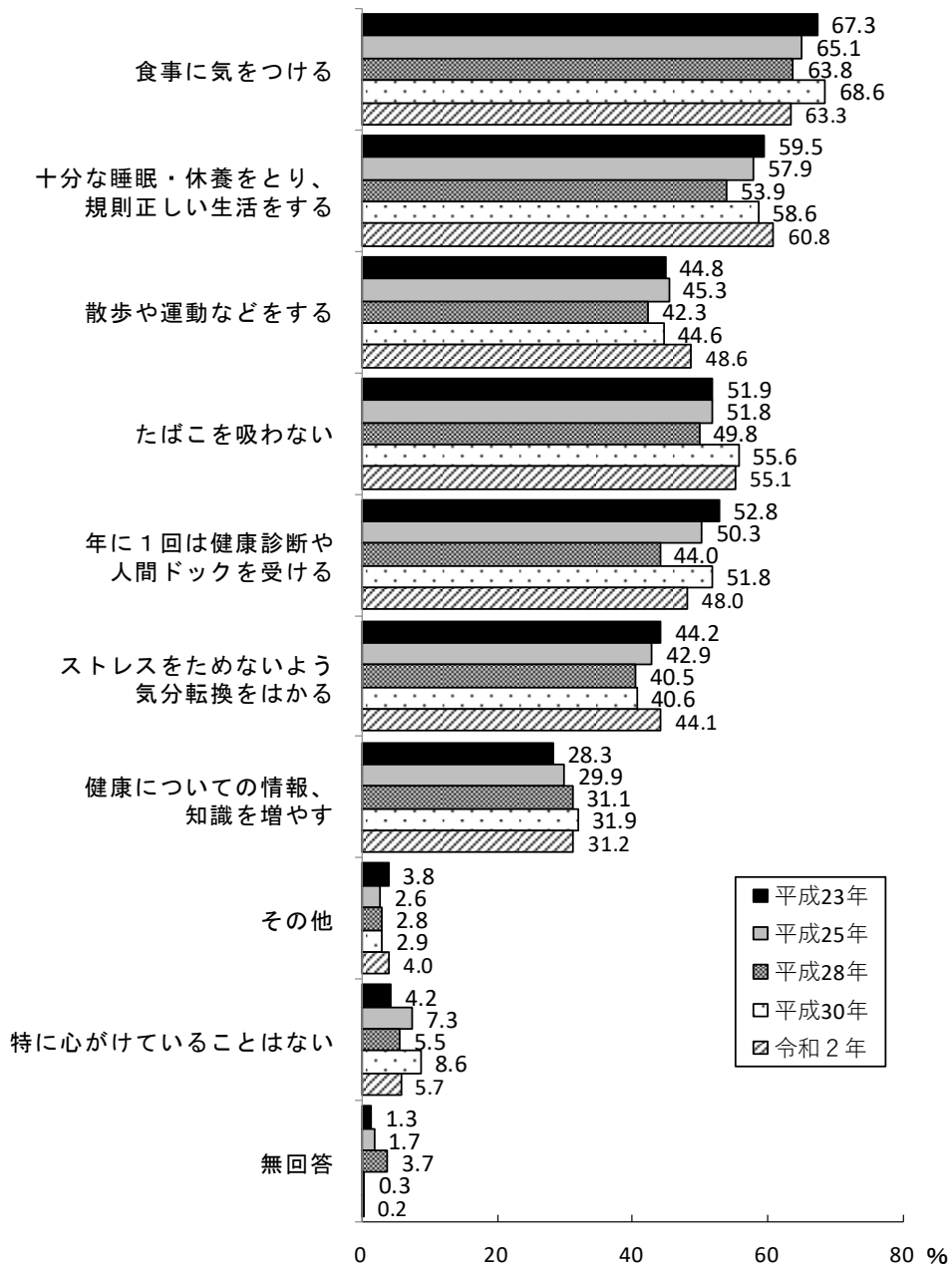
「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」は男性・女性ともにほとんどの年代で5割以上となっていますが、男性では20歳代、30歳代、40歳代で4割台と他の年代に比べて低くなっています。

「たばこを吸わない」は、男性では70歳代で63.4%、女性では20歳代、60歳代が6割近くとやや高くなっています。

「散歩や運動などをする」は、男性の18歳・19歳、60歳代以降、女性の60歳代以降の年代で5割台後半～6割台前半と高くなっています。

「年に1回は健康診断や人間ドックを受ける」は、男性では50歳代以降、女性では60歳代以降で5割台となっており、特に女性の60歳代と70歳以上ではいずれも6割近くと高くなっています。

健康づくりのために心がけていること（経年比較）



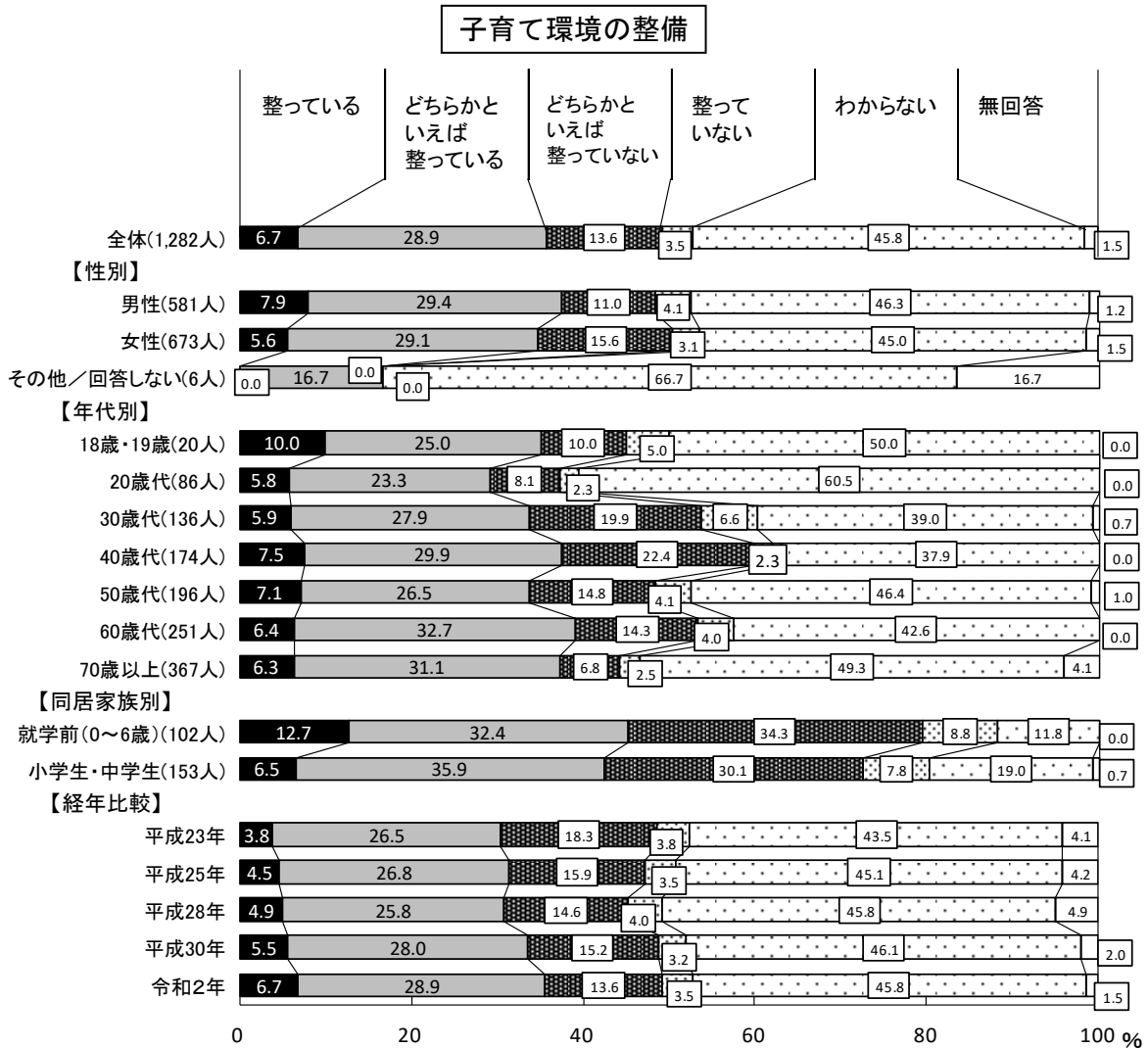
※「年に1回は健康診断や人間ドックを受ける」は、平成25年度までは「年に1回は健康診断を受ける」。

経年で比較すると、「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」が60.8%、「散歩や運動などをする」が48.6%で平成23年度調査以降最も高くなっています。「食事に気をつける」は63.3%で平成30年度調査と比較すると、5.3ポイント減で最も減少しています。また、「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」「散歩や運動などをする」「ストレスをためないよう気分転換をはかる」は、平成30年度調査から増加しています。

2-4 子育て環境の整備

◆ “子育て環境が整っている” 35.6%◆

問7 あなたは、東松山市は子育てしやすい環境が整ったまちだと思いますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



全体で見ると「整っている」は6.7%、「どちらかといえば整っている」は28.9%で、両者をあわせた35.6%が“子育て環境が整っている”と回答しています。また「整っていない」(3.5%)と「どちらかといえば整っていない」(13.6%)の両者をあわせた“子育て環境は整っていない”との回答は17.1%となっています。

年代別で見ると“子育て環境が整っている”は、60歳代で39.1%、40歳代、70歳以上でそれぞれ37.4%と高くなっています。一方で子育て世代である30歳代、40歳代では“子育て環境は整っていない”が2割台半ばと他の年代に比べ高くなっています。

同居家族別のうち、子育て中の家族のいる世帯で見ると、就学前(0~6歳)の子と同居では“子育て環境が整っている”(45.1%)が“子育て環境は整っていない”(43.1%)を2.0ポイント上回っており、小学生・中学生と同居では“子育て環境が整っている”(42.4%)が“子育て環境は整っていない”(37.9%)を4.5ポイント上回っています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、平成23年度調査以降、“子育て環境は整っている”は緩やかな増加傾向にあり、今年度調査では最も高くなっています。

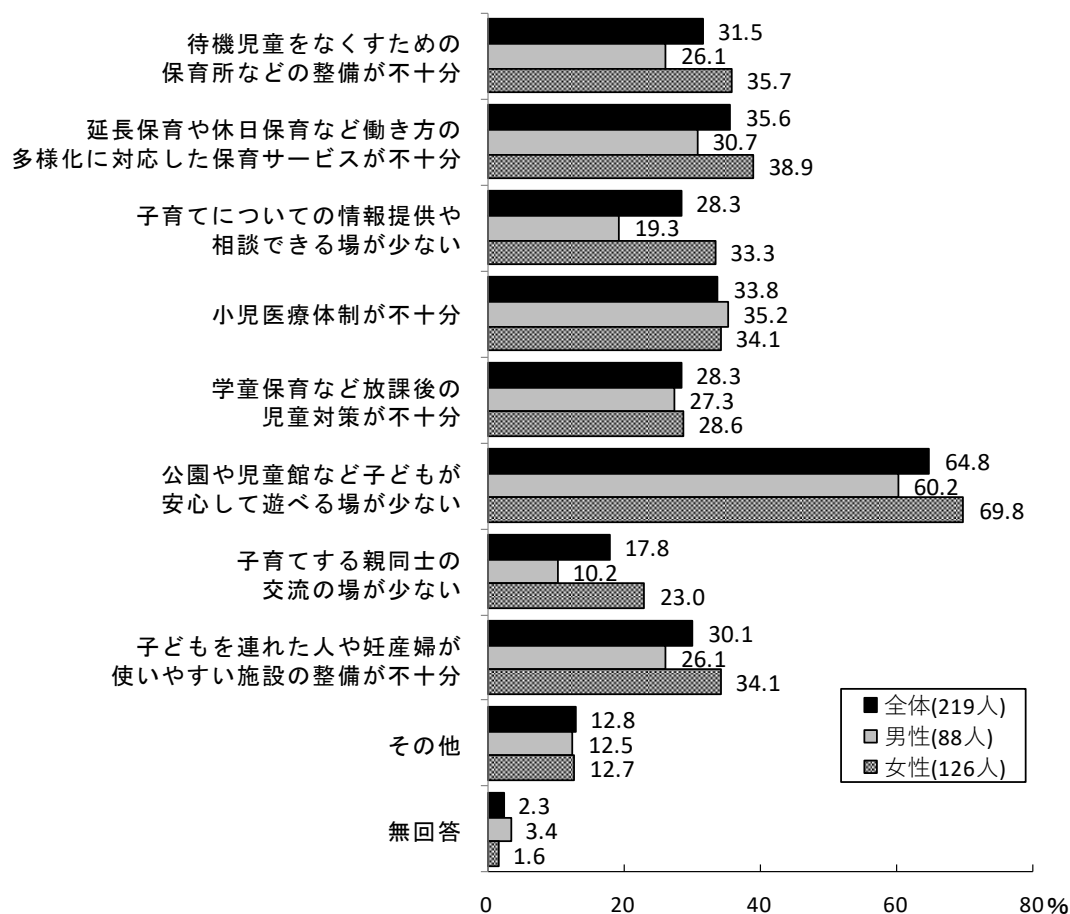
2-5 子育て環境が整っていない理由

- ◆「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」64.8%、「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」35.6%◆

(問7で「どちらかといえば整っていない」または「整っていない」とお答えの方におたずねします)

問7-1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

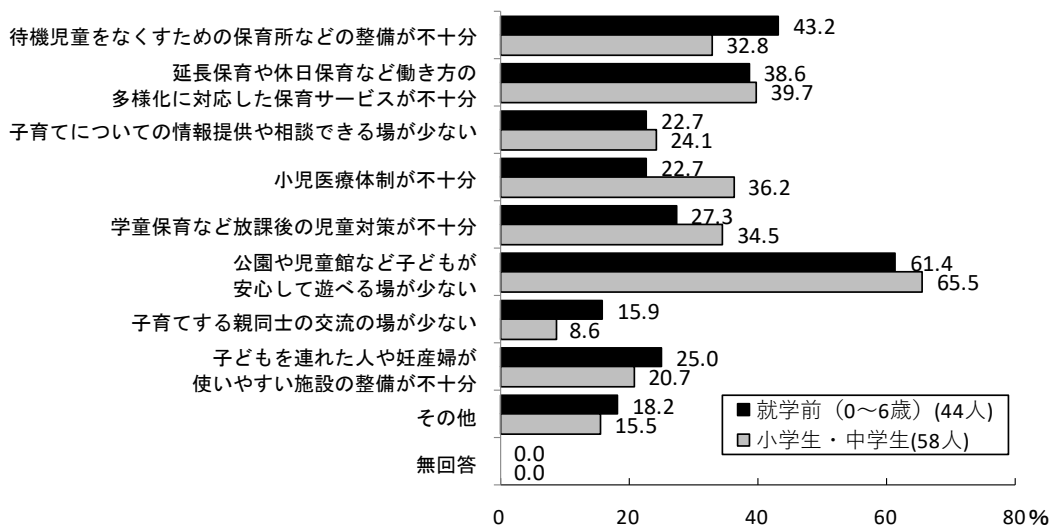
子育て環境が整っていない理由(全体・性別)



全体で見ると「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」が64.8%で最も高く、次いで「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」(35.6%)などが続いています。

性別で見ると「子育てについての情報提供や相談できる場が少ない」は女性(33.3%)が男性(19.3%)を14.0ポイント、「子育てする親同士の交流の場が少ない」は女性(23.0%)が男性(10.2%)を12.8ポイント上回っています。また、「待機児童をなくすための保育所などの整備が不十分」「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」「子どもを連れて人や妊産婦が使いやすい施設の整備が不十分」では女性が男性を5ポイント以上上回っています。

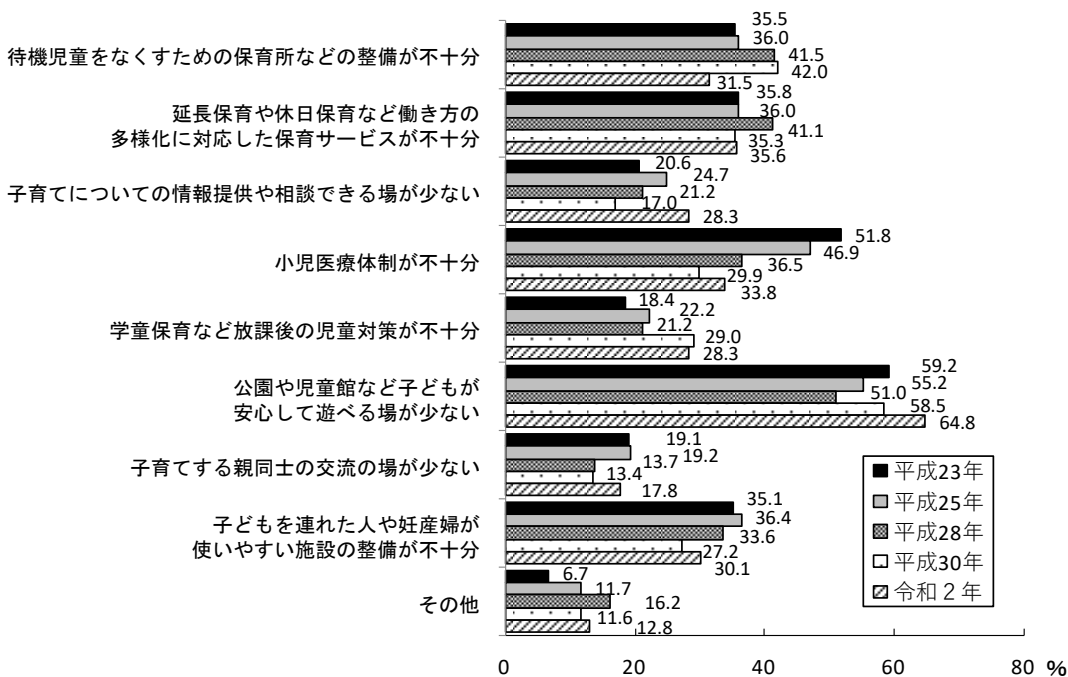
子育て環境が整っていない理由（同居家族別）



同居家族別のうち、子育て中の家族のいる世帯でみると、「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」は、就学前（0～6歳）の子と同居が61.4%、小学生・中学生と同居が65.5%とそれぞれ最も高くなっています。

次いで就学前（0～6歳）の子と同居では「待機児童をなくすための保育所などの整備が不十分」が43.2%、「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」が38.6%、「学童保育など放課後の児童対策が不十分」（27.3%）と続いています。また、小学生・中学生と同居では「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」（39.7%）、「小児医療体制が不十分」（36.2%）、「学童保育など放課後の児童対策が不十分」（34.5%）と続いています。

子育て環境が整っていない理由（経年比較）

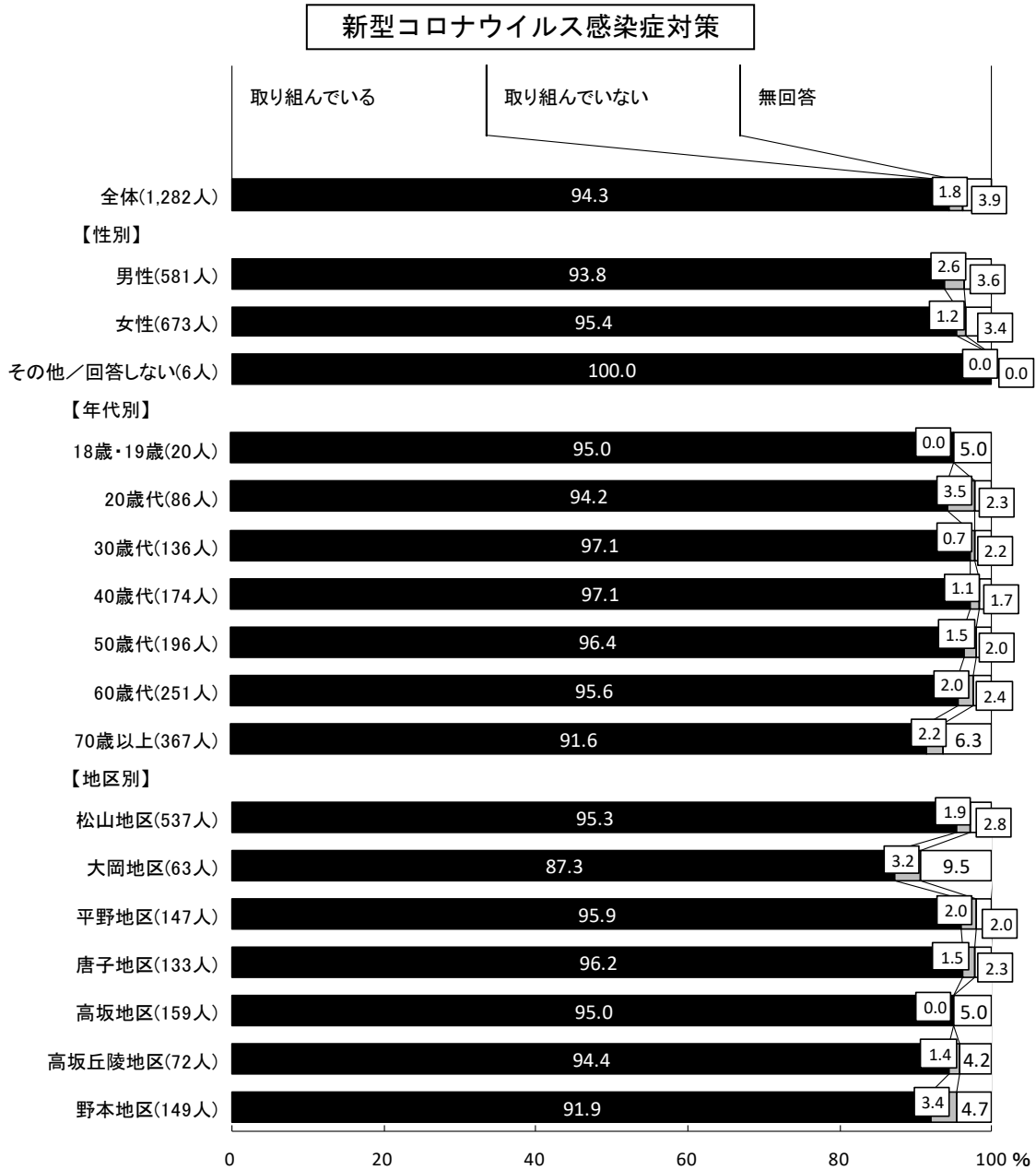


平成30年度調査と比較すると、ほとんどの項目で増加傾向にあり、特に「子育てについての情報提供や相談できる場が少ない」が11.3ポイント、「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」が6.3ポイント増加しています。一方「待機児童をなくすための保育所などの整備が不十分」は10.5ポイント減少しています。

2-6 新型コロナウイルス感染症対策

◆ “取り組んでいる” 94.3% ◆

問8 あなたは、新型コロナウイルスの感染症対策に取り組んでいますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



※「新型コロナウイルス感染症対策」は新設の設問です。

全体で見ると「取り組んでいる」が94.3%、「取り組んでいない」が1.8%と、「取り組んでいる」が大半を占めています。

性別で見ると「取り組んでいる」は女性（95.4%）が男性（93.8%）を1.6ポイント上回っています。

年代別で見ると「取り組んでいる」は全ての年代で9割を超えており、特に30歳代、40歳代ではともに97.1%と最も高くなっています。

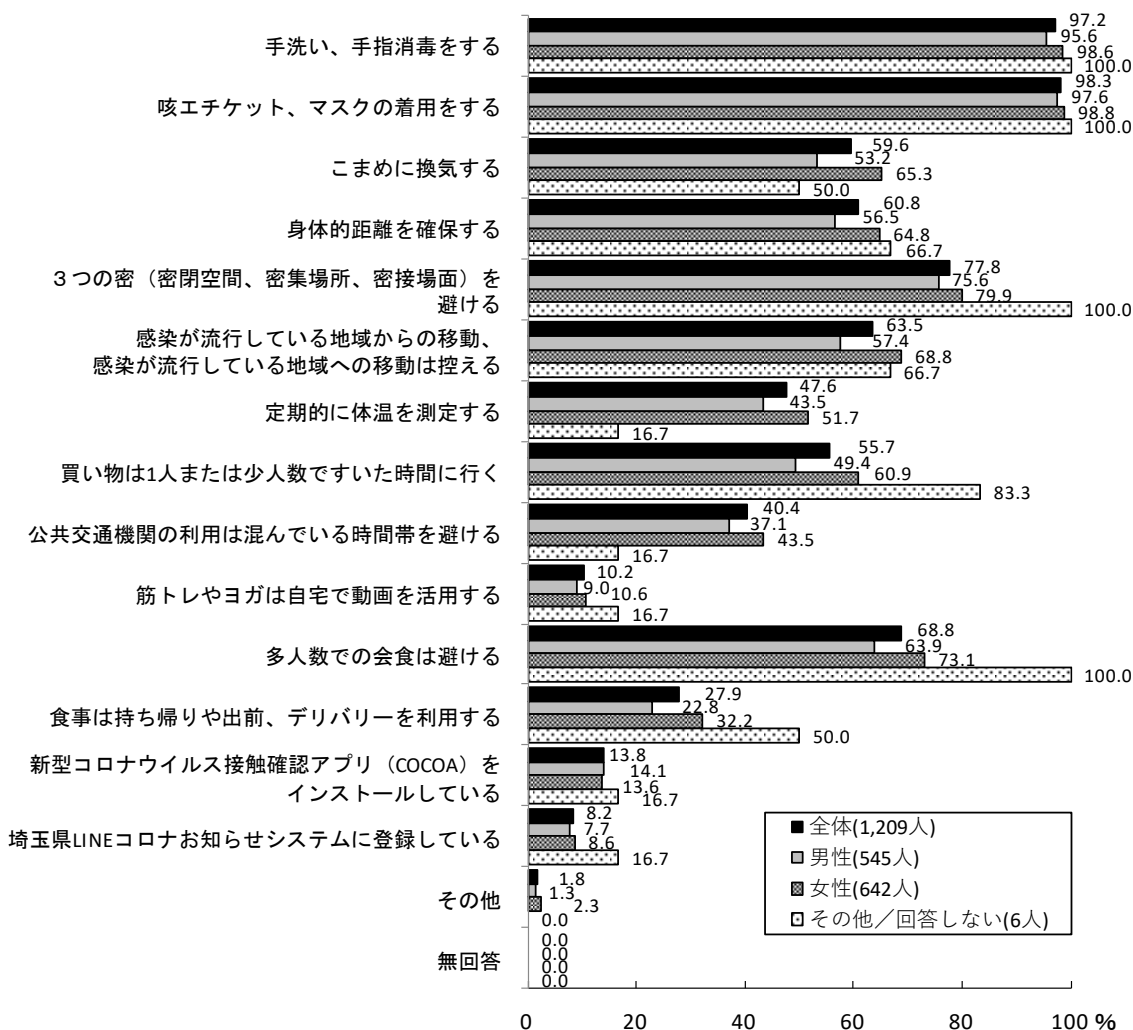
2-7 感染症対策のために取り組んでいること

◆「咳エチケット、マスクの着用をする」98.3%、「手洗い、手指消毒をする」97.2%◆

(問8で1とお答えの方におたずねします。)

問8-1 日常生活の中で、どのようなことに取り組んでいますか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

感染症対策のために取り組んでいること（全体・性別）

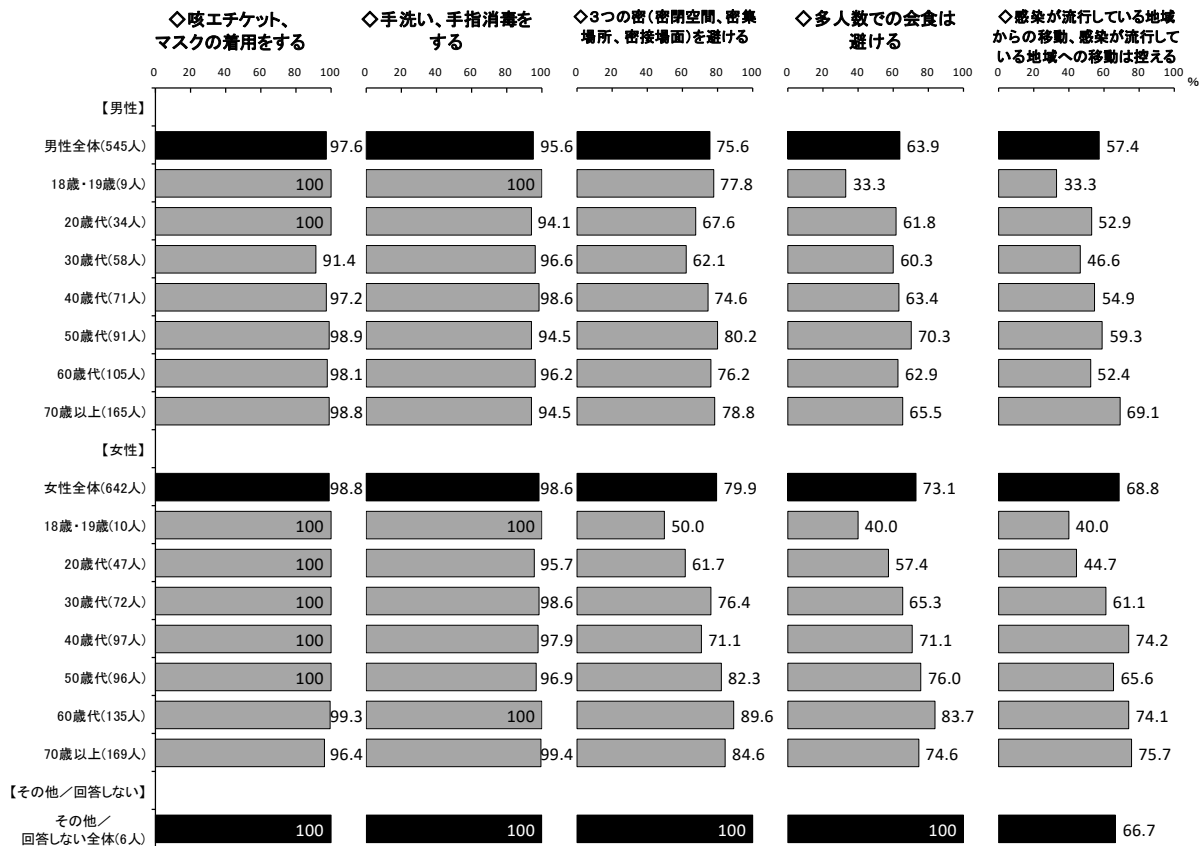


※「感染症対策のために取り組んでいること」は新設の設問です。

全体で見ると「咳エチケット、マスクの着用をする」が98.3%を占め最も高く、次いで「手洗い、手指消毒をする」(97.2%)、「3つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）を避ける」(77.8%)などが続いています。

性別で見ると全般的に女性が男性に比べ高く、特に「こまめに換気する」は女性(65.3%)が男性(53.2%)を12.1ポイント、「感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える」は女性(68.8%)が男性(57.4%)を11.4ポイント、「買い物は1人または少人数ですいた時間に行く」は女性(60.9%)が男性(49.4%)を11.5ポイント上回っています。また、「身体的距離を確保する」「定期的に体温を測定する」「公共交通機関の利用は混んでいる時間帯を避ける」「多人数での会食は避ける」「食事は持ち帰りや出前、デリバリーを利用する」は女性が男性を5ポイント以上上回っています。

感染症対策のために取り組んでいること（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「咳エチケット、マスクの着用をする」は男性・女性ともに9割以上と大半を占めており、特に男性の18歳・19歳、20歳代、女性の18歳・19歳、20～50歳代では100%となっています。

「手洗い、手指消毒をする」は男性・女性ともに9割台半ば以上と大半を占めており、特に男性の18歳・19歳、女性の18歳・19歳、60歳代では100%となっています。

「3つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）を避ける」は男性の20歳代（67.6%）、30歳代（62.1%）、女性の18歳・19歳（50.0%）、20歳代（61.7%）で他の年代に比べ低くなっています。

「多人数での会食は避ける」はほとんどの年代で6割以上となっていますが、男性・女性ともに18歳・19歳で3～4割台と他の年代に比べて低くなっています。

「感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える」は女性の40歳代、60歳代以降でそれぞれ7割台半ばと高くなっています。